

競技上の注意

審判長 松本定則

1. 適用ルール等について

- ①令和3年10月1日一部改定の日本卓球ルールに準じて実施する。
- ②チームは選手8名と監督1名の合計9名以内とし、この人員がベンチに入れるものとする。
- ③試合は11ポイント5ゲームマッチで行う。リーグ戦は5番まで行い、この順位決定は5番までの試合結果を加えるものとする。トーナメント戦はオーダー順に3点先取とする。
- ④タイムアウトは適用しない。
- ⑤審判については、相互審判とする。

2. ボール・ラケット・ラバーについて

- ①ボールはプラスチック製の公認40mmホワイト球を使用する。ボール選択は各試合毎に行うこと。
- ②外国製ラケットを使用する場合には、予め試合前に審判長の許可を受けること。
- ③ラケット本体の打球面は、公認のラバーで覆われ片方は黒、他方は片方の黒やボールの色と区別できる明るい色とする。

3. 競技用服装について

- ①競技用服装（半袖シャツ、ショーツ、スカート）はJTTAの公認マークの付いているものを着用し、出場する全競技者は同じ服装で競技すること。ただし、服装が揃わない場合は試合開始前までに、審判長に申し出て許可を受けること。

4. サービスについて

- ①フリーハンド（手首から先）の手のひらを開き、自由に転がる状態でボールを乗せて静止させ、16cm以上ボールをほぼ垂直に投げ上げ、落下する途中を打球すること。
- ②①の間、ボールはエンドラインの後方で、台の高さよりも高い位置であること。
- ③ボールが手のひらから離れたら、すぐにフリーアーム（腕）とフリーハンドをボールとネットとの間の空間の外に出すこと。

5. 促進ルールについて

- ①ゲーム開始後10分が経過した場合（ポイントスコアの合計が18ポイントに達していない場合）は促進ルールを適用する。

6. アドバイスについて

選手はゲームとゲームの間の休憩時間（1分以内）及び認められた競技の中断時間にのみアドバイスを受けることができる。ゲーム中にボールを手渡す時などにアドバイスをしないこと。

7. その他の注意事項

- ①選手はフェアプレーに徹し、爽やかな態度で、応援も拍手で行うこと。新型コロナウイルス感染拡大防止とマナーアップに心がけること。
- ②試合をする選手は、次の手順を遵守すること。
 - 1.試合がすぐできる状態でテーブルへ→2.ラケットを相互に確認する→3.(拳) ボールの選択→4.(拳) サーブ・レシーブ、エンドの決定→5.練習(2分間) →6 練習終了後すぐ試合を開始
- ③試合前の練習は2分までとする。審判はネットの延長線上で台と台の中央に立ち、「ラヴオール」の宣告で試合を開始すること。
- ④試合開始又は終了時は台から1m以内まで近づいて整列をし、黙ったまま礼をする。終了時の挨拶後に相手ベンチに行かず、直ちに次の試合の準備をすること。
- ⑤試合中はゲームの継続性を保つこと。ラリーが終わったら素早く次のラリーに移ること。
- ⑥幕・旗の掲示については、横幕は縦1m×横4m以内、また校旗等は縦1.5m×横2m以内とする。縦幕は許可しない。